

他にもさまざまな改革を進める

- 1 職員の全ての業務用端末をデスクトップPCからノートPCに更新。1人に1台、計1,470台の割り当てを実現。すべてのノートPCにChatGPTのような生成AI「Crew」が入っており、一人ひとりの業務効率が大幅に改善。
- 2 増え続けていた市役所の長期休職者や退職者を減らすため、就任したその日に全職員にアンケートを実施。その結果を踏まえ、任期付職員の常勤化や待遇改善、職場環境を大幅に改善。また、箕面市で初めて技術系の副市長を全国から公募し、JR西日本から41歳の副市長を登用するなど民間人材を積極的に活用。市役所の組織改革を進める。
- 3 市長の退職金を0円にする(850万円の削減)とともに、市民評価連動制給料を導入。市長の給料は市民が増減させる全国で初めての制度をスタート。早速、来年から市長の給料は市民アンケートで市民の皆さんが決めた給料に。
- 4 市民の皆さんと毎月1回意見交換会を実施。毎回満席になるほど多くの皆さんにご参加いただく。タウンミーティング形式だけでなく、ランチトークやオンライン交流も行い、さまざまな世代や地域の方にご参加いただき、市民の皆さんの声を市政に生かすまちづくりを進める。
- 5 新しく起業する方や、創業して間もない方へ上限30万円を補助する創業支援制度をスタート。また、補助金を出すだけでなく、箕面商工会議所の経営支援員による伴走支援を行い、箕面市に事業所を根付かせる。それにより、箕面市にさまざまな魅力的なお店やサービスが生まれるとともに、法人市民税の増加など大きなメリットが生まれる。



副市長の二人を刷新。組織の若返りを図る



市内の飲食店で定期的に開催している市長ランチトーク

市長が変われば、まちが変わる。1年間の結果

就任から1年。さまざまな取り組みを進めてまいりました。

市民の皆さんのご協力や職員の皆さんの頑張りと、歴代の市長や市議会の皆さんのご尽力もあって、

●人口がついに14万人を突破(令和7年7月現在、14万93人)

平成30年に13万8千人に到達して以来、令和6年4月まで13万8千人台で増減していましたが、ついに14万人を超えました。

●住みこちランキング※で箕面市が大阪府内1位に!

令和7年7月、6年連続1位だった大阪市天王寺区をついに上回り、大阪府内1位に。(関西でも3位から2位に上昇!1位は芦屋市。)

任期中に必ずや芦屋市を上回るべく、引き続き箕面の良さをしっかりと発信し、箕面に住みたいと思っていただける方が増えるよう広報に力を注いでまいります。 ※令和7年7月発表の大東建託株式会社「いい部屋ネット 街の住みこちランキング2025<全国版>」から

●さまざまなメディアで箕面市が取り上げられるようになりました。

新たに定例記者会見を年4回行うなど、新聞やテレビなどへ積極的に情報を提供することで、さまざまな媒体で箕面市が取り上げられる機会が大幅に増えました。また、講演会や大学の授業などを積極的に行い、箕面のまちを営業。市長自身が箕面市の広告塔や営業部長という意識を持って、今後も積極的なSNSの発信など、広報戦略に力を注いでまいります。



「箕面の明日へ」サポーター募集

原田りょうさんを応援する草の根の輪と一緒に広げていくサポーターを募集しています。

政治団体「箕面の明日へ」は原田りょうさんを応援しています。原田りょうさんは、市長職に専業で取り組んでおり、大きな企業や団体からの寄付も受け入れていません。このチラシの作成やポスティング費用もサポーターの皆さまからのご寄付で実現できています。

ご支援いただける方は、右のQRコードより必要な情報を記載していただくか、メールでお名前などを記載していただき、口座へのお振り込みをよろしくお願いいたします。

池田泉州銀行「箕面の明日へ(ミノオノアスへ)」 箕面駅前支店(店番号132) 口座番号0220268

ご支援
いただける方は
こちらから



箕面の明日へ

みんなで
ワクワクする
未来へ

01

発行日 令和7年8月 発行

[発行元]箕面の明日へ 事務局
箕面市船場西2-2-1
ニューエリモビル3階
info@haradaryo.net

Message メッセージ

いつも温かい応援を賜りありがとうございます。

箕面市長に就任をさせていただき1年が経ちました。公約でお約束したことを全力で実施しており、すぐに実現できないものもありますが、すでに公約の80%以上に着手しています。今回は、皆さまに進捗をお知らせし、今の市政をチェックしていただければと思い、広報誌をお届けしました。ぜひご覧いただき、お声を聞かせただけましたら幸いです。

これからも、皆さまの声を生かして、ワクワクする箕面の明日へとともに歩んでまいりましょう。

箕面市を世界一のまちへ。

箕面市長 原田りょう

略歴

昭和61年8月23日生まれ / 私立智辯学園高等学校 卒業 / 大阪大学法学部法学科 卒業
被災地支援団体ACTION 代表(現在、防災士) / 衆議院議員事務所 勤務
箕面市議会議員(全国最年少25歳で当選、1期) / 大阪府議会議員(28歳で当選、2期)
(一社)箕面青年会議所 理事長 / 阪大ベンチャー ナノフoton株式会社 会長参与 / 箕面市ソフトボール協会 会長

原田りょう

任期中のロードマップ

現在、公約着手状況は80%! 着実に施策を進めています。

子育て・教育 世界一のまちへ

項目	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
学校給食無償化			R8年の1学期からスタート予定		
オムツの定期宅配		R7年10月スタート			
子育て世帯のヘルパー派遣		R7年10月スタート			
不妊・不育治療の費用助成(5万円)		R7年10月スタート			
室内温水プールの整備			R8年6月オープン		
習い事代助成				R9年4月からスタート予定	

緑あふれる 突き抜けるブランド力あるまちへ

項目	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
都市緑化(桜井駅前ロータリー植樹)		第1期植樹		R9年度第2期植樹予定	
桜広場の整備		R7年度内オープン			
西部地区再ブランディング(サンブラザ1号館の建替)		設計・工事		★R9年度内オープン	
西部地区再ブランディング(桜井駅南改札の設置など)		用地取得・設計・工事		★R9年内オープン	
市役所屋上開放		設計・工事	★R7年10月オープン		

便利で安心 歩いてどこでも行けるまちへ

項目	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
バス路線再編			R8年4月新路線で運行スタート		
グリーンロード100円値下げ(北部地域住民の通行料補助)			R8年度スタート予定		
全避難所へパーテーション型テント整備(完全プライベート型避難所の実現)		R7年度中 整備完了			
ダンボール回収・リチウムイオン電池回収				R9年度スタート予定	

※各事業の実施予定は掲載時期(R7、8月)における予定であり、工事の進捗状況、財源の確保状況によりスケジュールが前後することがあります。また、箕面市議会の議決を前提としています。

次のページは、公約の進捗状況を公開! ➡

アクション01 子育て・教育 世界一のまちへ

① 真に使える子育て支援策の充実を徹底

- 今年度から、1歳までの子育て世帯へおむつの定期宅配と家事を手伝うヘルパーの派遣、不妊・不育治療の5万円の費用助成、新生児へ絵本のプレゼント、全額国の交付金を活用した中学3年生以下の子ども一人に1万円の支給など、**子育て支援のレベルを一段階引き上げました**。また、教育委員会に弁護士を配置するスクールロイヤー制度の実現、ゆずるキッズパークの遊具を倍増させることや、若者へのSNS相談もスタートさせました。そして、令和8年度から小中学校の学校給食無償化、令和9年度から習いごと代助成(毎月1万円程度)を実施する予算の道筋もつけました。さらに、令和9年度に、子どもたちが無料で遊べる屋内型の遊び場を新みのおサンプラザ1号館の2階へオープンさせます。



遊具を倍増した雨でも遊べる
ゆずるキッズパーク

PICK UP!

② 真の待機児童ゼロへ

- 廃止される予定だった公立保育園(桜ヶ丘保育所、東保育所)を存続させ、幼稚園の入園希望者もしっかりと受け入れる0歳～5歳の認定こども園を整備する計画へ変更。また、東部地区へおひさまルームの増設を進める。

③ 体力向上・健康寿命の延伸

- 屋内温水プールの整備(令和8年6月オープン予定)を進め、令和8年中にすべての小学校の水泳授業を、民間プールの活用含め、熱中症指数に左右されない屋内プール施設で実施へ。



屋内プールイメージ図

④ 時代にあった教育改革の徹底

- 英語が公用語であるフィリピンの学校2校と箕面市の中学校2校の子どもの継続的なオンライン交流を実現。

⑤ 大阪大学のリソースをまちづくりに活かす

- 大阪大学へ箕面市の職員を5月から研究員として派遣し、大阪大学の知見を箕面市政へ取り入れるとともに、官学連携を深める。

アクション02 緑あふれる 突き抜けるブランド力あるまちへ

① 緑あふれる住宅都市のブランド化

- 今年度、新たにみどりの基本計画を改定し、新たな指標である緑視率を保つことを記載し、**箕面のまちから緑が増えることはあっても減ることはない旨を計画に定める**。具体的には、老木になった街路樹を切るだけではなくしっかりと植え替えを行うことや、今年度中に旧なか幼稚園横の広場に桜を15本植えるとともにベンチを設置し、桜広場として滞留できる花見場所の整備を進める。他にも、今年の秋頃に箕面市役所の歴史上初めて屋上を開放。市役所の遊休スペースの解消とともに、箕面の北の山並みや緑を感じられる素晴らしい展望スポットへ。街中の緑は、その都市のブランド価値を高めるもの。引き続き街中の緑を増やしてまいります。



桜広場イメージ

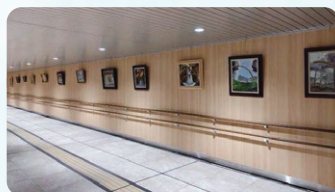
PICK UP!

② 憧れの阪急沿線という西部地区の再ブランディング

- 滝道の魅力向上のため、ブルーシートで覆われていた箇所を市による購入が実現。今年度中にポケットパークとして整備を進める。また、箕面駅前ロータリーのLEDを撤去し、緑や噴水、文字モニュメントを整備した新たなロータリー化計画を進行中。新みのおサンプラザ1号館は令和9年度に完成予定。合わせて、アーケードの改修とともにミストを設置予定。
- 桜井駅の南側改札は令和9年中の開業に向けて予算を議決済み。駅前のプランターも順次、木に植え替えを進める。



滝道の一部の買収が実現。
今年中にベンチの設置や紅葉を植える
など素敵な空間に生まれ変わります



箕面船場阪大前駅の地下通路へアート
作品を展示

③ 文化・芸術・スポーツのまちのブランド化

- 市内の公共施設にアート作品を展示(200点)し、日常から文化芸術に触れられるまちづくりを進める。また、メイプル文化財団と連携して、ワンコイン・コンサートなどさまざまな音楽イベントを実施。さらに、あまり使われていない駅前ステージ(箕面・桜井・船場)をアーティストに無償で貸し出しを行い、街中から音楽が聞こえるまち箕面市を進める。
- ガンバ大阪、サントリーサンパーズ大阪など既存のプロチームとさらに連携を深めるとともに、大阪工ヴェッサと新たに包括連携協定を実現。

④ 健康長寿のまちのブランド化

- 箕面萱野駅や箕面船場阪大前駅、既存の駅周辺など新たな禁煙禁止地区の指定を進める。
- 来年度から高齢者の新型コロナワクチン接種の自己負担額を12,000円から8,000円に引き下げ予定。

⑤ 安心安全なまちのブランド化

- 回収を求める声を受けて、令和9年度からダンボール回収とリチウムイオン電池の回収を実施予定。
- 不法投棄が多い箕面の山の入口(2箇所)へナンバー認証式防犯カメラを市として初めて導入。



ナンバー認証式カメラとともに大阪府に
交渉し警告看板も併せて設置

アクション03 便利で安心 歩いてどこでも行けるまちへ

① バス路線網の拡充とバス路線の再検証→最適化

- 既存のバス路線を見直し、新たなバス路線を構築しました。就任後すぐ、市民の皆さまへ利用者アンケートを実施し、この間さまざまなお声を集約してきました。また、阪急バスとも何度も交渉を重ね、運転手不足の中でも新規路線を設定したり、社会実験路線も存続させることができました。さらに、オレンジゆずるバスについても青ルートが箕面萱野駅にアクセスするよう変更するなど、合わせて改善を進めています。現在、新たなバス路線のパブリックコメントを行っており、市民の皆さまの声をさらに反映させてより良いバス路線へ生まれ変わり、**来年度から新たなバス路線で運行をスタートさせます**。



PICK UP!

新しいバス路線は
こちらから
ご覧ください
▼



② 交通格差の解消

- 箕面森町と止々呂美の住民の皆さんに向けたグリーンロードの100円値下げを令和8年度から開始させる道筋をつける。
- 大阪府から管理者不明として閉鎖された橋を、大阪府と交渉を重ね、24橋のうち使用実態のある22橋を引き続き存続させる。



大阪府から突然封鎖された橋(24橋)

③ バス路線網から漏れた地域もアクセス改善

- オレンジゆずるタクシーの当日予約を復活させるとともに台数も8台から11台へ拡充。
- AIオンデマンドバス「のるーと箕面」の実証運行をスタート。
- 阪急電鉄と交渉し、シェアサイクルのポートを阪急沿線にも拡大。シェアサイクルの拡充を進める。
- みのおキューズモールと交渉し、みのおキューズモールの駐輪場にすべて3時間の無料時間を設定していただくとともに、市営駐輪場も3時間の無料時間を設定。料金体系も揃え、違法駐輪が激減。合わせてバイクの駐輪場も増やす。



阪急の駅に設置が実現した
シェアサイクルポート

④ 災害に強いまち箕面をつくる

- 今年中にすべての避難所に避難者の数に合わせたテント型パーティションを整備。約13,000人分のプライバシーに配慮した衛生的な空間を確保し、日本一快適な「完全プライベート型避難所」を実現。
- 新たに9箇所の地域防災ステーションを拡充し、誰もが歩いて行ける距離に避難所または地域防災ステーションがある環境を実現。



全ての避難所に配置する
テント型パーティション

⑤ 障害のある方々と共生のまちづくり

- 電気・ガス・食料品などの価格高騰による負担を軽減するため、国の地方創生臨時交付金を活用し、物価高騰分を利用料金などのサービス価格に転嫁することが困難な福祉施設(介護サービス事業所や障害福祉サービス事業所、障害児通所支援事業所など)に対して支援金を交付。

市民の皆さんから寄せられたお声

Q. 原田さんはいろいろな施策を進めているけど、財源は大丈夫でしょうか。増税にはならないでしょうか。

A. 増税は絶対しません。例えば、国に直接交渉し、学校にある古い太陽光パネルの撤去費用を使わずそのまま設置できるようになり、4400万円を削減できました。他にも無駄な事業を見直し、すでに2億円以上の削減を行いました。また、新規事業の実施に際して、積極的な発信を行うことで賛同する企業や市民の方から、3000万円以上の寄付を集めました。その財源を生かして、市の負担なく、緑化(桜広場の整備)やおむつの定期宅配事業・絵本のプレゼント事業を行います。さらに、今年からふるさと納税・企業版ふるさと納税を集めることによりかなり力を入れ、専任の営業担当者も設けました。毎年着実にふるさと納税を増やすことができています。今後も市のお金をなるべく使わずに、国や府の補助金を積極的に活用するとともに、寄付の確保をさらに推進してまいります。